

CWAJ/VVI/Newsletter

2018 年冬号

1. ごあいさつ
2. CWAJ 2018 年後半の活動報告 現代版画展について
3. HOA2018 の報告・解説・参加者からのコメント
4. HOA 海外展 2016 年の報告
5. ECG からの報告と参加者からのコメント
- 6 エッセイ 南沢創（みなみさわ はじめ）さんからの寄稿文
○バリアフリーかるたを世界へ
7. 編集後記

*各項目の最初に★印を付けてあるので、項目検索にご利用くださいませ。

CWAJ = College Women's Association of Japan VVI =

Volunteers for the Visually Impaired (視覚障がい者との交流の会)

ECG = English Conversation Gathering (英会話の集い)

SVI=Scholarship for the Visually Impaired (視覚障害学生奨学金)

HOA = Hands-on Art (ハンズ・オン・アート) JVD CB = **Japan**

Vocational Development Center for the Blind (日本盲人職能開発セ

ンター) FSC=Foreign Students Circle (外国人留学生との交流の会)

1. ごあいさつ

2018 年も残すところ後わずかとなりました。今年も VVI ニュースレター春・秋・冬号にご寄稿頂いた方々にはこころから御礼申し上げます。また ECG や HOA をはじめとする VVI のイベントに多数ご参加いただき、CWAJ と VVI のメンバー一同から感謝申し上げます。

今年には西日本豪雨災害、台風 21 号、北海道での大地震とそれに伴う大規模な土砂災害と日本では立て続けに大きな災害が起きました。またカリフォルニアの山火事、ナイジェリアなどの熱波、エーゲ海の大洪水など世界各国でも異常気象の被害が報告されておま

す。自分の周りや世界の状況を把握しながらも、自分自身が知性と判断力を持ち、前に進む勇気が求められております。CWAJ と VVI では皆様の英語力を向上させるイベントや、楽しい企画を工夫し、皆様との交流が深まることを願っております。

今回のエッセイは世界にバリアフリーの「百人一首」かるたを楽しむことを発信されている南沢創（みなみさわ はじめ）さんの寄稿をお届けいたします。お楽しみいただきたいと思っております。

2. CWAJ2018 年後半の活動報告 現代版画展について

CWAJ 版画展委員会は、第 62 回 CWAJ 現代版画展と併設展「懐かしきをたずねて」を代官山のヒルサイドフォーラムにて、10 月 31 日から 11 月 4 日にかけて開催しました。また、10 月 16 日から 11 月 5 日にかけて、併設展を東京アメリカンクラブのフレッド・ハリスギャラリーに於いても開催しました。若手版画家を応援するため 2005 年に設立されたヤング・プリントメーカー賞では、今年と 3 年前の受賞者に加え、過去の受賞者の作品も紹介しました。両会場合わせて 281 枚の版画が展示されました。代官山での開催が 2 年目となる今年は、お天気にも恵まれ、1,000 名を超えるお客様にご来場いただき、好評のうちに閉会することができました。

CWAJ 現代版画展委員会ディレクター 松村ひろみ（まつむらひろみ）

3. HOA2018 の報告・解説・参加者からのコメント

○ 今年も現代版画展の一環である視覚障害者と楽しむアート、ハンズ・オン・アートのプログラムのために、テーブルがフォーラム 1 階に設置されました。

VVI のメーリングリストに登録されている皆さんには、11 月 2 日から 3 日間のご案内をしましたが、加えて日本点字図書館と横浜ライトセンターのご紹介で、たくさんの視覚障害の方が初めてこのプログラムを経験されました。そして、これまで最多の 37 名の方が版画展を訪れて、立体コピーだけでなく、会場全体に展示された 200 点を越える作品を鑑賞されました。今年は他の行事と重なった方も多くなか、これだけたくさんの方が訪れてくださり、またご自身のガイドヘルパーと共に来られた方も多く、ハンズ・オン・アートのテーブル周辺はおおいににぎわいました。特に土曜日にはご来場が集中しましたので、グループに分けて、テーブルで立体コピー鑑賞、オリジナルの作品の前で立体コピーを、そして上階で展示作品の鑑賞、とそれぞれ始めていただきました。来年に向けて、もう少しスムーズに鑑賞いただける方法を考えたいと思っております。

ご存じの方もおられると思いますが、この立体コピーは、版画展に選ばれた作品の中からはっきりしたデザインや色彩のもの、物語性のあるもの、などの視点で作品を選び、CWAJ の

メンバーが原稿をつくり、日本点字図書館によって、手で触れて鑑賞できる立体作品として制作されています。また作品についてのコメントをそれぞれの作者からいただいて、鑑賞の際にボランティアが説明しています。今年は初日から、一般のお客様もこのコーナーに立ち寄ってくださり、ボランティアによる紹介に興味を示してくださいました。

初めてハンズ・オン・アートを経験して下さった方のなかには、私達の気がつかなかった問題点へのご指摘もありました。今後改善できることを考えていきたいと思えます。

第 62 回版画展ハンズ・オン・アート コーディネーター
石井ふみ子

○ HOA2018 年についての解説と VI 来場者からのコメント

解説：絵画を理解するというのは、人それぞれですが、視覚障害者にハンズ・オン・アートのプログラムとして学んで、感じてほしいこととは何かを説明します。まず、HOA（ハンズ・オン・アート）では一つ一つの絵をあらかじめ用意された立体コピーの絵をなぞって理解していただくのですが、これはあくまで理解のほんの一部分です。絵は形で理解することと同時に、その絵の持っている雰囲気や訴えていることや、暖かいとか冷たいとかを感性で感じることで、そして感じたことを、想像を働かせて、思い描くことが大切であることを知ってほしいです。ガイドと一緒に絵について説明を受けたら、質問をして、その絵について語り合うことが大切です。絵の持つ魅力を感じ取り、芸術的な想像力を育てることが重要です。また展覧会会場では、展覧会という場の雰囲気に吞まれてほしいと思います。芸術に対する感性は経験で育ちます。想像することで経験した世界と繋がります。感性や想像力と経験は相乗効果を持っていますから、ぜひ、毎回ご来場くださいませ。

古田 映子（ふるた えいこ）

○ では次は、HOA（ハンズ・オン・アート）参加者からのコメントをご紹介します。

●ありがとうございました。絵を、説明を聞きながら触れる HOA は、とっても貴重な機会です。楽しかったです。

● 本当にお世話になりました。素晴らしい時間が経験できました。

また 来場者の方たちとの、楽しいお食事も経験できました。

多くのボランティアの方々にお世話いただきました。

本当に有難うございました。

● 会場ですが、建物の外から分かりづらく、素通りしてしまうので、立て看板か、誘導者が欲しいです。

● 本日は大変お世話になりました。文化の日に、相応しいアート展に、お誘いください

いまして十分に堪能することができました。暫く美術鑑賞は、見えづらくなってからは遠ざかっておりましたし、本日の会場は作品も見やすい位置に展示され臆することなく近づいてみる事が出来、一点一点説明もあり、手に取るように見る事ができました。皆様のご協力に感謝しております。

● HOA にお邪魔して幸せな時間を過ごすことができました。ありがとうございます。いつも私達の元気の源になってくれる時間をありがとうございます。

● 11月3日のHOA午後2時の部では、スタッフの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。日頃から、作品に接する機会が無いだけに、作品一つ一つにイメージが膨らみ、良い勉強になりました。これからも、引き続きどうぞ宜しくお願いします。

●昨日は大変貴重な体験をさせていただき有り難うございました。お目にかかりお話しすることが出来て良かったです。皆さまお忙しいにも関わらず丁寧に説明をしてくださり私達、皆感謝しております。私にはHOAは初めての体験でしたので楽しめました。また、素晴らしい作品ばかりで改めて版画に魅了されました。楽しい時間を過ごさせて頂きまして有り難い気持ちでいっぱいです。皆さまによろしくお伝えくださいませ。

CWAJの今後の発展をお祈り致しております。

● 11月3日土曜日午後にお伺いしましたが、大盛況で驚きました。昨年よりも多くの方が鑑賞していたように思います。私は視力が残っているので、実際の作品と立体コピーを比較できてよかったです。特に、サボテンの作品は、目でみただけではサボテンの花とはわからなかったのが、立体コピーは大きな手助けをしてくれました。

● 今回、立体コピー・会場内の作品、どちらも英語だけで説明していただいたのですが、とてもわかりやすく、楽しめました。このような楽しい機会を与えていただき、本当にありがとうございます。来年も楽しみにしています。

● HOAも盛況で楽しい時間を過ごしました。

● 昨日、版画展の作品を拝見させていただきました。今回も多種多様な作品に出会い、それらの世界に引き込まれるくらいでした。混んでいたせいか、立体コピーに触れ、会場の係の人とのちょっとしたお話がしにくかったのが残念でした。今後ともよろしくお祈りします。

● 昨日は大変お世話になりました。大変勉強になりました。私の想像力が不足しているため、ほとんど分かりませんでしたが、今まで知らなかった世界を垣間見ることができました。

● HOAは今年も楽しかったです。ボランティアさんの解釈や説明は、十分私のイメージーションを刺激してくれました。お昼も食べずに長時間お付き合いいただき感謝しているとお伝えください。

4. HOA 海外展 2016 年の報告

2016年 VVI ニュースレター春号に掲載された第60回 CWAJ 現代版画展の海外展は、2016年6月から10月まで米国・マサチューセッツ州の東端に位置する半島・ケープコッドにあるファルマスという街のハイフィールドホール・アンド・ガーデンズで還暦展として再現され、海外展として初めてハンズ・オン・アートも海を渡り紹介されました。このたび、CWAJの海外メンバー、Joanne からハンズ・オン・アートのその後についての報告がありましたので、お知らせいたします。以下は彼女のレポートです。

版画展の期間中は、学習室を設けて CWAJ のガイダンスに沿ってハンズ・オン・アートコーナーに立体コピーや岡本流生氏の版画とお借りした版木数点、さらに作品に込めた作家の思いを英文と英点字に翻訳したコメントとともに展示されて、多くの来場者の関心を集めました。また、ハイフィールドがベースのサマーキャンプに参加した子供たちにとっては、手で触れて木版画を味わう体験を通して、芸術は障害の有無に関係ないことを改めて知り、アートがより身近に感じられた瞬間になったようです。

版画展の展示を担当した学芸員でアートディレクターの Annie は言います。

「ハンズ・オン・アートは視覚障害者を含むハイフィールドのビジターに目新しい体験を通してアートの限界を広げました。彫刻など手で鑑賞できる立体的作品と異なり、平面的作品を手で鑑賞する機会は皆無だったのに、ハンズ・オン・アートは芸術を多様な方法で鑑賞できることを教えてくれたのです。その意味でこの展示は好評を得て、貴重なレッスンになりました。ハイフィールドはこれまで彫刻など立体的な作品を主に展示してきたけど、ハンズ・オン・アートはクールだというのが、子供から年配のビジターの大半の意見でした。私もまったく同感です！」

還暦展当時は会議室を学習室としてハンズ・オン・アートや版画制作の展示に充てていましたが、ハイフィールドは今年から会議室を常設のギャラリーとしてハンズ・オン・アートや版画制作の展示室となり、とても魅力的なスペースになっています。

HOA2015年担当 古田映子（ふるたえいこ）、服部純子（はっとりすみこ）

5. ECG（英会話の集い）からの報告と参加者からのコメント

○ 報告

12月1日、気持ち良い小春日に多数のVIフレンズが、渋谷のアイリスに集まり、フィリピン人の Gemma とオランダ人の Hester からお国ではクリスマス、お正月の楽しい時期をどのように過ごすかと言うお話を伺いました。質疑応答の後、クリスマスソングを皆で歌い、Gemma と Hester が用意したお菓子を食べてから、CWAJ のボランティアも加わり、自由な英会話を楽しみました。楽しい ECG に皆さまのまたのご参加をお待

ちしています。ここでは、少し **Gemma** のお話を紹介します。

フィリピンは、熱帯性気候の国で12月から2月が最も涼しい期間(摂氏22度から28度ぐらい)で、この時期に最も大切な国民の祝日、クリスマスと新年のお祝いがあります。フィリピンは1898年までスペインが300年以上、1946年まで40年間アメリカが支配したため、クリスマスに関する文化の影響を受けたのです。彼らはできるだけ長い間祝いたいと9月から街じゅうでクリスマスのライトアップ、飾り付け、クリスマスソングでムードを盛り上げます。その中でもフィリピンの伝統として挙げられるのが「パロル」です。星をかたどったクリスマスイルミネーションが竹のポールやフレームに配され、和紙やセロファンで美しく飾られます。

もう一つのクリスマスの伝統は、**Misa de Gallo** で早朝ミサが12月16日から24日まで行われます。これに出席する事を殆どの人が死ぬ前にしておきたい事のリストに入れています。スペインの植民地時代初期、日中の厳しい日差しを避ける為、日の出前に仕事を始めた農民たちの知恵だったのですが、日の出前に起きて9日間休まずにミサに出席すると願いが聞き遂げられると信じられています。

フィリピン国民の殆どがキリスト教徒で80%がカソリック信者というアジア唯一のキリスト教国なので、クリスマスは、一番大切な国民の休日です。

クリスマスイヴも大切で、多くの人が翌日のクリスマスまで一晩中起きています。

イヴには、信者はその年最後のクリスマスイヴミサ、「**simbang gabi**」を聴きに教会へ行き、その後、真夜中の祝宴が続きます。

それは、「**Noche Buena**」と呼ばれ、盛大な心の籠った家族の祝宴で、豚の丸焼きや春雨に似た **pancit**、甘いハム、チーズの一種の **queso de bole** などを食べます。

あなたが属しているあらゆるグループでクリスマスパーティーがごく普通に行われ、それは、パーティーが、良い仲間と沢山の食べ物を共に楽しむ素晴らしい機会だと思っているからです。

他のキリスト教国と同様、クリスマスは、歌と賛美で祝われます。人々は大抵グループでタンバリンやギターを手に好きなクリスマスソングを歌って家々を回り、そのお礼を頂くとそのお返しに感謝の言葉を歌ったものでしたが、最近では、民間団体、或いは社会経済グループの資金集めの活動になって来ました。

また、**Aguinaldo** と言うのは、クリスマスの日に関係を訪問するしきたりで、子供たちは晴れ着を着て、敬老の行為である **mano** と言う古くからの伝統を実践します。親戚や名付け親は、殆どの場合おもちゃや金銭のプレゼントを与え、これらのギフトが一般にアギナルドと呼ばれています。

新年

フィリピンのお祝いの季節は、クリスマスの日が終わっても、聖書に出て来る東方の三

博士を祝って翌年の最初の日曜日まで続く為、新年の準備も贅沢にとり行われる事になります。以下にフィリピン人の新年のお祝いとして最も一般的な伝統を紹介しましょう。フィリピン人は、強い家族意識を持っていて 大切な行事を親戚と華やかな料理で祝うのが好きなのです。クリスマスイヴの御馳走が **Noche Buena** なら、大晦日の御馳走は、素晴らしい **Media Noche** です。それは、来る年を迎える為に親しい家族、友人と共にするお祝いの夕食です。

フィリピン人は、幸運を招くと信じて 休暇シーズン中 ある種の食べ物に固執します。**Pancit**(長い麺類)は、長い寿命を象徴するので祝いの主食となります。家族のつながりを強固にする **biko, puto** のような粘り気のあるお米も同様です。特に新年、夕食のテーブルに **12** 個の丸い果物を並べる習慣があります。

フィリピン人は、迷信深く お年寄りには様々な習慣を語りますが、大晦日に新年を迎える為に大きな音を出すのもその一つです。多くのフィリピン人は、耳をつんざく騒音が、悪霊や他の自然の力を追い払うのを助けると信じています。不運を避けようと人々はしばしば花火を点けたり、戸外で大きな音楽を演奏したり、**torotot**(子供の間で人気のある小さい使い捨てのトランペット)を吹いてみたりするのです。その他、より明るい年を迎えようと家の中のすべての照明器具を点けたり、幸運を掃き出すまいと新年にはすべての掃除をしないと、良いエネルギーが家に入って来るように 整理棚、ドア、窓を大きく開けておいたりします。

フィリピン人は、圧倒的にカソリック教徒なので国内でのお祝いの多くは、宗教的観点から考えられます。多くのフィリピン人は新年の初めを教会で過ごし、行く年来る年に祈りを捧げるのです。

また、新年の真夜中の鐘の音にまつわる迷信には、鐘の音を聞いてできる限り高く飛んだり、背が高くなるのを願ってジャンプして幸運を得ようとするようなものがあります。子供たちはポケットにコインを入れておいて鐘が鳴るや否や軽くゆするように言われます。そうすることで新年に富を引き付けると信じられているのです。

フィリピン人は、家族意識が強くて食事を楽しむのですが、親戚と共に祝いする事も楽しめます。フィリピン特有の伝統と世界に共通するお祝いを家族の集まりで楽しむのです。ご清聴有難うございました。メリークリスマスを そして良いお年を！

E C G コーディネーター 森藤 純子(もりとう じゅんこ)

○ 次に、出席者からのコメントをご紹介します。

● ECGのクリスマス会にお誘いいただき、ありがとうございました。

本日の集まりを心ゆくまで楽しみ、無事に帰宅しました。

次回の集まりも楽しみにしています。

CWAJ、並びに VVI の皆様も よいお年をお迎えくださいませ。

● 本日は楽しいひと時をありがとうございました。

フィリピンとオランダのクリスマスについてのお話の後、CWAJ メンバーの方が席にいらして、英語で話もできました。片言の英語でしたが、意思疎通ができてとてもうれしかったです。フルーツサラダとスパイスのきいたクッキーも美味しくいただきました。

● 今日は大変お世話になりありがとうございました。

お天気にも恵まれ、楽しい一時となりました。

国によってクリスマスの過ごし方や食べ物など違いがあり、耳を最大限に使いながらポツリポツリと聞き取っていました。

また、クリスマスソングは私の口が遅く、今日は耳も口も大忙し、良い刺激となってくれました。

今年もCWAJの皆様のお陰で充実した楽しい時間を持って感謝いたします。

ありがとうございました。

● お世話になりました。

クリスマスツリーの無いフィリピン、でも、9月から電飾などが賑やかだとか。

フィリピンはカトリック教徒が80パーセント、オランダはプロテスタントなのですね。

オランダのクッキーもフィリピンのフルーツサラダもとても美味でした。

来年もよろしくお願いします。

CWAJの皆々様のご多幸をお祈りしております。

6. エッセイ 南沢創（みなみさわ はじめ）さんの寄稿文

南沢創さんの現在の仕事は、宇都宮市立中央小学校の教諭で、全クラスの音楽の授業を担当されています。年齢は45歳。長野県上田市出身です。網膜色素変性症という、先天性・進行性の難病のため、高校生の時に急速に視力が低下し、現在は明暗がわかる程度の視力です。それでは南沢さんから寄せられた原稿をお届けいたします。

○ バリアフリーかるたを世界へ

映画「ちはやふる」の大ブレイクで、百人一首が一躍脚光を浴びている。和歌が読み上げられた瞬間に札が飛ぶ迫力、そして日本文化の奥深さ、味わい深さが多くの若者たちの心を捉えた。

ところで、視覚障害者にも、二人の競技者が向かい合って札を飛ばし合う形で、百人一首のかるた取りができることを御存じだろうか。

対戦する二人の間には、点字と拡大文字の記された四枚の札が置かれている。二人はまず、その四枚の札の配置を確認し、覚える。

読手によって二人の間にある四枚のうち一枚が読み上げられ、競技者はその札を取り合う。取られた札のあった場所に次の札が追加され、競技者の間には再び四枚の札が並ぶ。

場に並んだ四枚の中の一が読み上げられ、その札を取り合う。これが繰り返される形でゲームが進んでいく。

緊迫した空気の中、読手の声が響くと同時に、畳の上に稲妻が走る。鋭く飛んだ札が壁に当たり、落ちてカラカラと乾いた音を立てる中、読手の声が、何事もなかったように、響き続ける。そして再び、静寂と緊張が場を満たしていく。

さまざまな場面での百人一首との関わりの中で、私が今紹介した、目の不自由な人が目の見えている人と向かい合って札を取り合えるかるた取り「四人一首」を考案して、間もなく2年になる。まだ2年しか経っていないともいえるが、そこに至るまでには、さまざまなドラマがあった。

小学生の頃、強度の弱視だった私は、周囲の友達と一緒に、百人一首の札を取り合って楽しむことを夢見ていた。

それから三十数年の年月を経て、全盲になった私は今、栃木県の宇都宮市で小学校の教員となり、小学生に競技かるたを指導し、百人一首を通じて、子供たちと日本の文化の奥深さを共有するようになった。

また、プライベートでは毎月、東京の高田馬場で行われる「点字付き百人一首の会“百星”（ひやくぼし）」の定例かるた会に足を運び、札を必死に追いかけるようになった。

初めて百星に足を運んだ日のことは、私の心に強く刻み込まれている。その日、私は、以前に百星が主催した拡大文字付百人一首の体験会でのエピソードを耳にした。体験会終了後に、ある参加者から、「目の見えない人間にこんな難しいことをやらせるなんて、失礼極まりない！」と罵声を浴びせられたのだという。

百星に集まるひたむきで誠実な方々に対し、私と同じ視覚障害者が、そんな暴言を浴びせかけるに至った背景を察しつつ、私にできることはないか考えた。

そして、シンプルで奥深く、誰にでも気軽に楽しめるゲームの形を模索しようと決意した。この他にも数多くの笑いあり涙ありのさまざまな出来事を経て、今に至る。個々のエピソードの詳細は、バリアフリーかるた普及を目的に私が立ち上げたホームページ、「バリアフリーかるたの世界へようこそ」

<http://doranekokaruta.raindrop.jp>

で順次紹介する。

このホームページでは、百人一首の取り札を手元に置き、ページ内に記された手順で簡単な準備をした上で、私の朗詠する和歌の読み上げ音声を聞きながら「四人一首」を体験したり練習したりすることもできる。

札は、百星の会で配布している体験用のものが使いやすい。希望者には私のホームページ上の直通アドレスに必要事項を書いてお送りいただければ、送料はかかりますが、お

分けすることができる。また、自分に合った札を自作することもできる。自作の方法は、ホームページを参照していただきたい。

バリアフリーかるたは、全日本かるた協会をはじめとする多くの方々の全面的なバックアップを得て、少しずつ世の中に知られるようになってきた。そして、2020年の7月には、東京で視覚障害者の百人一首競技全国大会が開催されることがほぼ確定した。

しかしその道のりはまだまだ険しい。今の段階では、どのような形やルールで試合を行うか、最終的なことは固まっていない。さまざまな人たちの種々の思いがぶつかり合い、模索の途にあるのが現状だ。そんな中で、私はその最終的な形を決めていくのは、愛好家自身であるべきと考えている。

前提として、まずは視覚障害者に百人一首の楽しさを知ってもらう足掛かりを築くことが必要不可欠だ。そのために私は今、毎日のようにホームページを更新し続けている。また、今までのあゆみを本にして出版する構想も暖めつつ、文章を書きためている。

目の不自由な方々に百人一首の楽しさを広げる挑戦は、今、佳境を迎える。バリアフリーかるたの未来に目を向け、応援していただけたら幸いである。

7. 編集後記

皆様、毎回 VVI Newsletter をお読みいただきありがとうございます。

最後に追記となりますが、CWAJ 現代版画展では、福島県中通りの中部に位置する市、須賀川市の小学生の版画 2 点も展示されていました。須賀川市は 2011 年の東日本大震災で大被害を受けた地域ですが、その須賀川市の小学 2 年生 戸賀翔琉（とが しょうる）さんの「とびばことべた！」の白黒の木版画作品は、跳び箱の上で、両手に力を込めて、今、まさにとびばこを跳ぼうとしている少年の姿が生き生きと表現されていました。また、「生物画」と題した同じく小学 2 年生の小和田光希（おわだ こうき）さんのドライポイントでの図鑑や写生用モデルの駒は、細部まで丁寧に写生されていました。小学生の前向きな元気に学びたいですね。

皆様、もう歳末となりましたね。どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。また来年春号でお会いしましょう。

VVI ニュースレター担当古田 映子（ふるた えいこ）

CWAJ/VVI ニュースレターは、CWAJ ホームページでもお読みいただけます。

<http://www.cwaj.org/Education/vvi-j.html>

皆様のご感想を、下記の連絡先までお寄せくださいませ。

連絡先が変わった方、ニュースレターのお知らせで就職や結婚を載せたい方もご投稿くださいませ。

(連絡先) VolunteersVI@cwaj.org

編集担当 古田映子 (ふるたえいこ)

発送担当：本村理子 (もとむらみちこ)